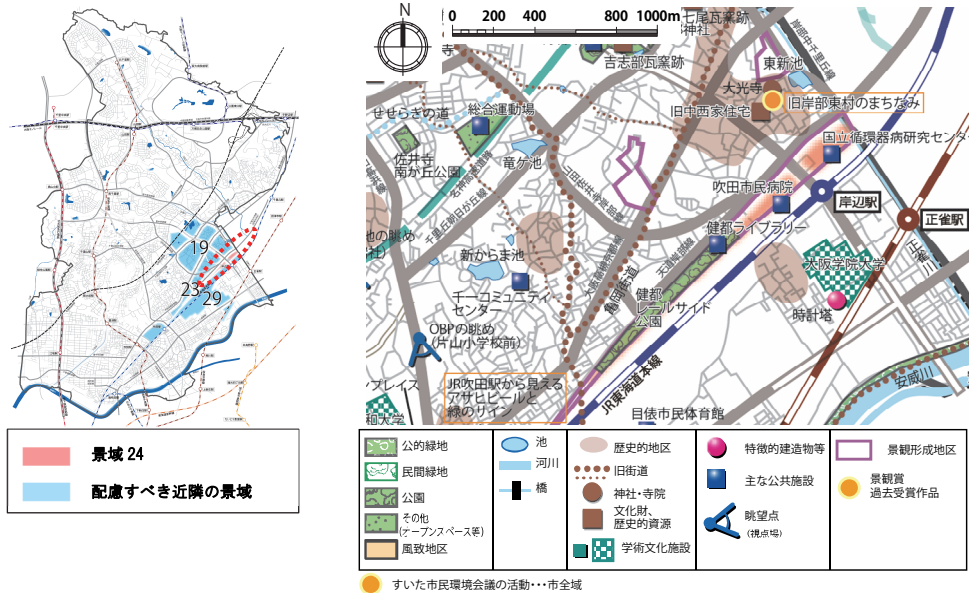


景域 24 北大阪健康医療都市界隈



緑の遊歩道でつながる健康・医療のまち

地形

J R東海道本線に沿って平坦な地形が広がっています。

歴史

吹田操車場は、大正 12 年（1923 年）の操業以来東洋一の規模を誇る物流拠点として、重要な役割を担ってきました。昭和 59 年（1984 年）にその役割を終え、多くの議論を経る中で、日本一厳しいといわれる環境影響評価をクリアするなど、吹田貨物ターミナルとして生まれ変わりました。

残りの区域（1.4 h a）では、東部拠点のまちづくり計画をはじめ、市民参加のまちづくりが進められ、土地区画整理事業による基盤整備の下、国立循環器病研究センターの誘致や市立吹田市民病院的の移転などを核とする、北大阪健康医療都市（健都）が整備されました。

土地利用

国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、商業施設などが立地し、地区内はみどりの基本計画において緑化重点地区に指定され、緑の遊歩道や敷地の緑化が進められています。

都市活動・暮らし

国立循環器病研究センターや市立吹田市民病院の移転開業、健康医療関連企業・研究機関の誘致により、医療機関と健康医療関連企業などが集積した国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）の形成をめざす取組が進められています。

健都ライブラリーでは、健都レールサイド公園における積極的かつ継続的な健康づくりを支援する拠点として、健康に ①気づき ②楽しみ ③学べる の 3 つの柱による多世代が集い、交流し、健康寿命延伸（生涯活躍）につながる場をめざす取組が進められています。

緑の遊歩道や健都レールサイド公園では、散歩や健康づくりのための運動をする人の姿や、子どもたちが遊ぶ姿、また、健都ライブラリーで学ぶ人の姿などがみられます。

建物敷地の緑化により、ゆとりと潤いのある景観をはぐくみ、医療拠点としてふさわしい景観をつくる

「潤いのある景観」をまもり、はぐくむ

- 健都レールサイド公園や緑の遊歩道の緑などを保全し、身近な緑空間の拡大、育成に努める。
- 地域性への配慮や統一感をもたせた街路樹による緑化に努める。
- 樹林・樹木の適正な維持管理に努める。
- 緑と調和するまちづくりに努める。

「生きる景観」をまもり、はぐくむ

- 敷地に花や緑を演出し、緑豊かな景観の形成を図る。
- 連続性や回遊性があり、にぎわいと楽しさの感じられる、駅前や沿道の景観づくりに努める。
- 快適に働ける、建物配置などが整った市街地空間づくりに努める。
- 祭りやイベントの舞台となりえる空間を創出し、人々のアクティビティを誘発する景観づくりに努める。
- 眺めを楽しみ、歩きたくなる景観づくりや憩いの場となる空間の演出に努める。

「調和と個性のある景観」をつくり、はぐくむ

- 各施設のオープンスペースを活かす、あるいは公園、緑の遊歩道との一体化などにより、ゆとりある景観の形成を図る。
- 壁面や高さ、色彩を周囲と調和させ、まとまりが感じられる景観の形成を図る。
- 建物の配置やデザインを工夫し、緑化などにより、医療拠点としてふさわしい景観の形成を図る。
- 沿道施設と住宅地との調和を図る。
- 街路樹により潤いを高め、道路の舗装や街路灯などにより連続性や統一感を演出する。
- 沿道施設との一体整備やバリアフリーへの配慮など、安全で快適な歩行者空間の形成を図る。
- 電飾や奇抜な色彩の使用を控え、大きさや設置方法を工夫し、広告物の集合化を図るなど、周囲に調和する広告物の掲出に努める。
- 魅力的な公共空間の創出に努め、地域の魅力となる景観拠点の形成を図る。
- 鉄道施設のデザインの向上などを図り、駅前にふさわしい景観の形成に努める。
- 駅前にふさわしいにぎわいや安らぎを与えるように、照明灯の色温度や配置・配光などで夜間景観の演出を図る。
- 公共空間から眺められることも考慮した建築物等をつくり、良好な景観の形成に努める。

配慮すべき近隣の景域

景域 19, 23, 29, 45



国立循環器病研究センター



健都レールサイド公園と健都ライブラリー